

「聴き取り票」を活用した面談の進め方

新型コロナウイルス感染症に関連した差別・偏見等を防止するため、感染者が確認された学校や学級で、担任等が「聴き取り票」を活用した面談を行い、児童生徒の状況を把握しましょう。

面談では、「自分や家族が感染したり濃厚接触したりして不安になっている子ども」や「差別や偏見を受けたり見かけたり自分自身がしてしまったのではないかと悩んでいる子ども」など、様々な悩みを抱えている子どもがいるだろうという姿勢で向き合しましょう。

まずは短時間でも全員と面談し、気になる子どもには、改めて時間を設けるなどしましょう。

面接時のポイント

1 子どもに安心感を与える導入にしましょう。

- ・「久しぶりに顔が見られて安心しました」「休んでいる間はどんな生活だった?」「よく眠れていますか」など、答えやすい話題で話しやすい雰囲気をつくりましょう。

2 不安な気持ちや困っていることがないか「聴き取り票」で確認しましょう。

- ・「聴き取り票」の質問項目を参考にしながら、子どもの回答や反応の様子を記録しましょう。
- ・気になった子どもがいた場合は、その場で深く追求せずに、できるだけ早く次の機会を設けて聴き取りをしましょう。

3 困ったときはいつでも相談してほしいこと、解決に向けて一緒に考えていきたいことを伝えましょう。

- ・子どもが相談しやすい人(〇〇先生、親、スクールカウンセラー等)を確認しておきましょう。
- ・「自分が言ったことは秘密にして欲しい」などの要望については、「秘密は必ず守る」「あなたのことは必ず守る」ことを伝えましょう。
- ・話してくれたことを認め、あたたかな声をかけましょう。

(面談後)

- ・聴き取りをした担任等は、面談結果をもとに、詳しく聴き取りをする子ども、スクールカウンセラーにつなぐ子どもなどの情報をできるだけ早く関係職員と共有し、今後の対応を決めて取り組みましょう。